

教員氏名：崎浜 聡（保育学科・専攻／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

私が所属する保育学科は、保育士資格と幼稚園教諭免許状の取得を目指す保育者の養成課程である。担当授業は1年次では「キャリアデザインⅠ」と「保育内容総論」、「幼稚園教育実習指導（観察）」である。2年次では、「幼稚園教育実習指導（責任）」及び「幼稚園教育実習」や「専門ゼミⅠ、Ⅱ」である。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

私の研究分野は「教育哲学」であり、保育の実践力に関する現象学的研究をおこなってきた。保育の実践力は、常に向上に向けた取り組みを欠かすことができず、完結することはない。そのため、保育者の実践力は閉じられたものではなく、「開かれたもの」であり、「運動するもの」である、という特性が私の保育者養成の理念となっている。よって、学生は自身の保育実践力を開いて、他者の実践と協働したり、子どもと共に共創したりすることや既存の保育実践が上手くいかなくなったり、閉塞感を感じたりする時に従前の認識を変容して、新しい保育観を再構築するために必要な知識や技能の教授を目指している。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

教育上の実践及び教材の工夫について、以下の内容を取り入れている。

- ①「事前事後学習」では、Google Classroomの機能を使用して、授業前の資料の提供と事後の質問等へのリフレクションを行っている。
- ②「演習科目」では、「教えない教育」を取り入れ、教員が一切教えない立場をとると、学生全員に「教える立場」と「教えられる立場」の両方が課される。その際にどのように学生自身が動くかをその場の雰囲気決めていく。これにより、教えられる立場から教える立場へと視点が移っていく変容体験が構築される。
- ③「講義科目」では、保育者の資質だけでなく、人としての「誠実さ」や「責任感」に重きを置き、人間力を基盤とした保育者養成を心がけて講義をしている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

授業終了後には、感想や質問をお願いしている。最初の頃は資料を踏まえた感想や質問

であるが、授業が深まり、学習の認識が高まると専門的で長い文章になってくる。

一方で、毎回の提出が重荷に感じたり、学習の深まりが見られなかったりする学生も1割程度存在するので、書きやすさや提出回数を少なくするなどの対応も考えている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標 「教えない教育」（学生主体の教育）について、丁寧に説明し、ほとんどの学生が主体的な学習態度で授業に参加できるようにする。

「理論と実践の循環方式」による授業を展開し、学んだ理論を実習や演習で実践し、振り返りからさらに、質を向上させていく実践力を高める教育を行う。

中期的な目標 ①「学び合う集団づくりの推進」：本学科の特徴は、学年人数が150名程度と多く、少人数教育が難しい。そのため、教員主導による学びの場の形成ではなく、学生が主体的に学びの集団をつくり、学生が相互に学び合う大人数教育を構築することを目指す。

②「教材研究室の開設」：現行では、学生が素材・教材研究する場や仕組みがなく、個別に任されているが、多くの学生は、YouTubeなどの動画配信サイトを参考に指導案を作成している実態がある。動画を見ればできる、という楽観的な姿勢なので、一度も見本を制作せずに指導案を書き上げるため、保育現場（実態）とのズレが大きくなると考えられる。これを改善するには、素材や道具を用意し、学生が素材・教材研究ができる場所を設置することが必要だと考える。

③「幼稚園教育実習のICT化の推進」：現行では、日誌や指導案は手書きであるが、実習園との連絡・指導・内諾を含めてクラウド上で行うシステムの導入によって実習生の「負担軽減」と「ICT化」を目指している。現在は、短大の実習委員会でワーキンググループをつくり進めている。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

- 1 担当科目のシラバス
- 2 授業資料のサンプル
- 3 デジタル指導案のサンプル